

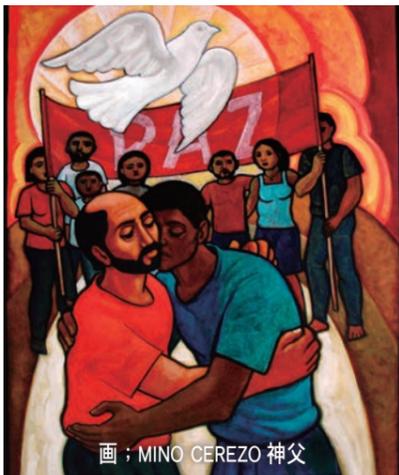


ヨゼフ アベイヤ 司教 認可
発行所 福岡教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 山元 真
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

平和の祈りは叫びとなって

日本カトリック平和旬間 (8/6~8/15) に寄せて

福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教



画：MINO CEREZO 神父

私が所属するクラレチアン宣教会で、本部の仕事をしてきた時には、多くの国々を訪ねることができました。その中で、暴力闘争に悩まされていた国を何度も訪問することがありました。そういうとき、平和について深く考えさせられました。

人々の暮らしを脅かしてしました。残念ながら今でもそうです。村を攻撃したり、人々を殺したり、子どもたちを誘拐したりすることがよくあります。マスメディアによつて何回も報道された現実なので、皆さんは聞いたことがあるだろうと思います。

ただ、その人々の平和の望みと心をつなぐ活動の誠実さには心を打たれました。本当に生活から生まれているもので、具体的なことでした。彼らの平和のための祈りは「叫び」でした。彼らの平和のための活動は命がけのものでした。

私たちは、今年も平和旬間を行います。教区や各地区で様々な企画が準備されています。素晴らしいことです。原爆とその背景にある歴史を忘れてはいけません。

今年、平和旬間において、現在、様々なところで続いている戦争や私たちの身近に進められている軍拡や平和を脅かす行動を思い起こし、私たちの平和の祈りが叫びになってほしいです。命が奪われている人々、微笑むことができない子どもたち、破壊されてしまふ家族の苦しみを

かす行動を思い起こし、私たちの平和の祈りが叫びになってほしいです。命が奪われている人々、微笑むことができない子どもたち、破壊されてしまふ家族の苦しみを

かす行動を思い起こし、私たちの平和の祈りが叫びになってほしいです。命が奪われている人々、微笑むことができない子どもたち、破壊されてしまふ家族の苦しみを

8・9月の意向

教皇の意向のために祈りましょう
【教皇の意向】(8月) 政治におけるリーダー(9月) 地球の叫び
【日本の教会】(8月) 世界の平和(9月) 高齢者の喜び

時の話題

「主の祈り」は平和の祈り

今現実起こっている二つの大きな戦争やあちこちの紛争、衝突・対立・不和などのニュースを聞く時、今すぐの戦争の終結や平和の回復は難しく感じます。無力感すら覚えます。私たちは、戦いのさなかに出かけて救助や支援にあたることはできません。心配しながら日常生活を送るばかりです。私は携わる仕事で、出会う方々の中で人の平和を思っています。「相手の思い通り生きることを強いられ、人として根本的な自由を尊重してもらえなかった」「認めてもらえなかった」「一人の人間として大切にされなかった」「いろいろな差別を受け続けた」等々。そこから起こる個人や家庭、社会で複雑に絡み合う問題。それが国と国との間に拡大して大きな争いにつながるのでないでしょうか。イエスが病氣や様々な困難を抱えている人と出会い、その人を一人の人間として大切にし、認め、差別せず、自由へ解き放つことを想うと、平和の実現は、まず自分自身が神に愛されているものであることを日々実感することであり、それが基となって他の人を大切にすることができるようになります。

「主の祈り」が私にとって一番の平和の祈りです。天の父よと呼びかける時、一人の方を父とする人はみな兄弟姉妹。いつくしみとまことである天の父の思いが一人ひとりの心に実現されますように。本当に弱い私たちに慈しみを示し、悪から護りお救いください。イエスの十字架を仰ぎ、苦しみを受けた正反対のことをお返ししてゆくこと。一生をかけて主の祈りを生きられますように。

礼拝会 Sr.荻野 富子



教区100周年ロゴマーク

「感謝・情熱・希望」を胸に一步を踏み出す

7月13日(土)と14日(日)の年間第15主日、福岡教区内の全教会で、2027年に迎える教区創立100周年に向けて、3年をかけて準備を始めるための開始ミサが捧げられた。このミサでは、アベイヤ司教が創立100周年に向けて発表したメッセージが読まれ、それぞれの小教区で共同祈願と、「創立100周年のための祈り」が唱えられた。

7月14日(日)梅雨末期の大雷雨も発令される中、カテドラル大名町教会では、主司式アベイヤ司教のもと、約300人の信徒が参加し、福岡教区全小教区の信者と心を合わせて祈りを捧げた。

具体的な例として、ナイジェリアの北部に行った時のことは強く印象に残っています。そこでは、テロリストのリストに加えられている「ボコハラム」というグループが

特に攻撃を受けているのはキリスト者で、ほとんどはこの国の他の地方からそこへ移住した人々です。数人から聞きましたが、毎朝大きな不安に駆られながら子どもたちを学校へ見送るそうです。戻ってくるかどうかかわからないという不安があるからだと言っています。それが繰り返される中で怒りを感じたり、人を憎んだり、暴力に暴

針の中にある「福岡教区の共同体が今まで歩んできた道を振り返って感謝します。また、福音に触れるときに伝わってくる情熱に促されて歩み続けようとしています。それによって、希望をもって将来に向かって行くことができると確信しています。『感謝』『情熱』『希望』はわたしたちの歩みを導く光です(P.6)に触れ、この3年間に留めてもらいたいと願った。

ものを見たり、自分の都合だけですべきことを決めたり、排除されている人々を目を向けなかったり、人の心を

具体的に心にとめて、私たちの祈りが大きな叫びになってほしいです。何もせずにいらなくなるほど、平和への思い傷ついたりしたこともありま

具体的に心にとめて、私たちの祈りが大きな叫びになってほしいです。何もせずにいらなくなるほど、平和への思い傷ついたりしたこともありま

福岡教区主催 平和を祈る集い

8月12日(月・山の日振替休日)
カテドラル大名町教会

【午前の部 10時~12時】
朝鮮舞踊・4団体による分科会

【午後の部 13時~16時】
代表者による平和への主張
平和祈願インターナショナル・ミサ
主司式 ヨゼフ・アベイヤ司教

※午後の部よりライブ配信有り
※詳細は教区HPか上記QRコードから。

講師

児島達美氏(臨床心理士)

日時: 9月23日(月・祝) 14時~16時

場所: カテドラル大名町教会
主催: 教区宣教養成委員会

※参加費無料
※詳細は教区HPか左記QRコードから。

講演 つながる喜び

より豊かな「会話」の中で
心に届く言葉を
養うためのヒント

9月号は休刊です。

記QRコードから
ご覧いただけます。



(左から) レナト・フィリッピーニ神父(聖ザベリオ宣教会) 司教・中村彰神父(大名町教会主任司祭)

「自身の信仰を深め、より積極的に福音宣教に励む」ために必要とされるものは何か。司教は折に触れ、「何かを識別する時に『今まで』は基準にはならない」と言う。なぜなら、現在の慣習にもそれ以前の「今まで」があり、推移しているからである。今までの100年を振り返り、さらなる高みを目指す次の100年を迎えるために、今からの3年間の歩みが試される。

司教メッセージ全文と開始ミサの様子は、下記QRコードからご覧いただけます。

夏が来ると思い出すのは草原の国モンゴルの星空だ。縁が何回かあったが、2003年夏の草原で特別な星空に出会ったのである。滞在中のある日、モンゴルの知人やその家族と一緒に首都ウランバートルを夕方出発して、チンギスハーンが築いたモンゴル帝国の都の跡まで車を走らせた。暗くなるにつれ、進行方向にオレンジ色に輝く人家の明かりと見間違う大きな星を見つけた。その星はまるで私たちが道案内しているようだった。この数年は火星が地球にもっと近づいていくらしく、日本に戻ってからしばらくは、この星がその火星だったのかと思いを馳せたものだ。夜も更けて目的地近くの草原にテントを張り、寝る準備を始めた。その時に見えた夜空は無数の星の光に満ち、ミルクをこぼしたような天の川が屈曲曲曲だった。畏怖の念を覚え、星空から目を離すことができず、心の中で手を合わせて流れ星を目で追っていた。そして、テントを張り終え、準備できたよと優しく声をかけてくれた、すでに友となっていた知人たちに感謝し、星空の真下、冷え込むテントの中で身体を寄せ合い平和な眠りについていたのだ。『あなたを天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます。月も星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたが御心に留めてくださるとは、人間は何者なのでしょう。人の子は何者なのでしょう、あなたが顧みてくださるとは』(詩篇8:4~5)。みことばと共に心に深く刻まれたモンゴル夏の草原での思い出である。(C)

福岡教区 本部会計 2023年度会計報告

① 経常収入は33,229万円となりました。内訳は小教区分担金3,759万円、寄付献金が8,625万円、運用と雑益で20,845万円となっています。小教区分担金と寄付献金が教区の基本財源ですが、2023年度は8,856万円程の収入不足を資産運用で賄う結果となりました。

教区本部会計の収入を補うために、資産運用収入は大いに役立っているのが現状です。2023年度は、16,427万円となり、昨年比4,200万円程増加しました。また、2023年度は小教区・墓地などの繰越金から約80,000万円の「預かり金」の協力をいただきました。概ね半年間の運用でしたが、1,274万円の実績をあげることができました。教区全体にとって大きな助け

科目	R5年度決算	説明
(宗教活動収入)	113,598,677	
【信徒通常献金収入】	27,526	
祝日特別献金	27,526	
【援助金収入】	23,660,984	
神学校援助金(神学校費)	23,660,984	一口300円で集めたお金は、全部本部会計に送金。小神学生・コレジオ・大神学生のための献金です。ちなみに、神学生養成支出は、23,067,932円でした。
【寄付金収入】	48,856,671	
一般寄付金収入	23,634,873	修道会献金・社会福祉法人献金・個人献金
指定寄付金収入	2,328,326	目的が指定されている献金、難民移住、召命促進
司祭寄付金収入	22,893,472	司祭、司教よりの寄付金
【特別献金】指定献金	3,455,600	
神学校後援会献金	2,500,000	
広報活動援助献金	951,689	購読料、広告料、広報の日献金
その他特別献金	3,911	
【分担金収入】	37,597,896	
小教区分担金収入	37,130,409	教会維持献金、ミサ献金と祝日特別献金の合計は、まだ、2022年度分の15%で、2023年4月に納入していただいた金額です。2023年度は30%で、2024年4月～5月に納入のお願いをしています。
租税分担金収入	41,987	小教区消費税、法人税など
その他分担金収入	425,500	福岡教区ハンドブック
(資産運用収入)	52,417,443	
雑収入	48,258,213	運用雑益、消費税等還付金、カリス、その他
電柱敷地料収入	159,230	
資産利用料収入	4,000,000	東光町
(繰入金収入)	2,000,000	
小教区会計繰入金収入	2,000,000	健軍(旧さゆり園)
経常収入合計	168,016,120	
資産運用より	164,276,398	
収入合計	332,292,518	

2023年度特別献金	献金額
指定献金合計	20,107,992
世界こども助け合いの日	3,833,014
四旬節愛の献金	3,988,502
聖地エルサレム献金	636,747
広報の日献金	1,055,557
聖ペトロ使徒座献金	1,175,202
世界難民移住賛助者献金	1,263,477
世界宣教師の日献金	1,292,289
宣教師召命促進の日献金	1,161,229
世界召命祈願の日	53,088
カテドラル献金	996,983
臨時指定献金	4,651,904

本部収支計算書 支出の部	R5年度決算	説明
(宗教活動費)	212,385,740	
【宗教活動費】	24,313,389	
祭儀行事費	2,708,161	ミサ用品、シノドス準備、ベトナム語ミサ
司祭研修費	2,163,469	司祭集会、司祭黙想会
委員会活動費	1,890,532	典礼委員会、宣教養成委員会、社会福音化委員会 他
宣教広報費	4,224,964	教区報、ハンドブック、ホームページ、取材、広告
教育養成費	9,985,173	コレジオ、WYD、ベトナム神学院
図書資料費	350,195	新聞、心の灯
会議費	842,996	顧問会、司祭評議会、経済問題評議会、宣教司牧評議会
諸会費	37,000	社会保健協会会費、架橋料
寄付金支出	2,110,899	長崎管区支援室、ダルク
【その他の宗教活動費】	17,161,300	
中央協議会納付金支出	1,850,000	分担金
教皇庁分担金支出	371,300	分担金
大神学院分担金	14,940,000	分担金
【助成金支出】	1,250,000	
小教区助成金支出	1,250,000	美野島司牧センター、浄水通り納骨堂、聖マリア病院
【管理運営費】	33,973,547	
消耗品費	903,426	印刷、事務用品、消防品、衛生用品など
通信費	1,063,422	電話、ネット、送料、振込料など
旅費交通費	2,076,041	通勤手当、旅費、交通費
自動車諸費	835,134	ガソリン、車検、修理
水道光熱費	2,988,092	本部、司祭の家、大湫会館、門司港教会、花岡山、八代殉教地、本郷巡礼地、旧コレジオ
交際接待費	216,916	お茶、お弁当、お祝いカード、電報、葬儀等
修理費	12,320	大湫洗濯機修理
営繕費	9,503,241	司教館リフォーム、幼きイエス、大湫会館(エアコン移設) 他
賃借料	3,341,800	会計機器リース、本部(電話機・コピー機リース代) 他
報酬委託手数料	8,758,583	税理士、会計事務、労務士、弁護士、エレベーター、消防点検、受水橋点検など
租税公課	2,014,061	旧さゆり園、東光等固定資産税、二日市水路等
損害保険料	2,215,328	司祭、小教区、修道院保険等(カリス)
雑費	45,183	残高証明、町内会費
【人件費】	135,687,504	
司祭給与	92,535,000	司祭、修道会給与等
職員給与	24,997,417	本部職員、パート、神学生、シスター給与
退職金	6,432,000	職員、司祭
法定福利費	10,258,431	社会保険料、労働保険料
福利厚生費	1,464,656	司祭・職員健康診断、司祭介護補償
(繰入金支出)	20,000	
本部会計繰入金支出	20,000	司祭黙想関係
経常支出合計	212,405,740	
司教館積立金支出	10,000,000	
次期繰越金	109,886,778	
支出合計	332,292,518	

福岡教区司祭 黙想会 神の想いに耳を傾ける



深い祈りと黙想の時間を過ごした司祭たち

ス修道女会 亀川修道院で行われた。この黙想会は教区司祭を対象として、宣教会や修道会、司祭など、希望者も参加することができ

6月17日(月)から21日(金)まで、福岡教区司祭の黙想会が、別府市のイエスのカリタ

韓国籍の協力司祭も参加した。今年は黙想指導のスルピス森山信三司教(大分教区

② 教区本部会計の年度内経常収支の差額は11,988万円の赤字となりました。そのうち、4,000万円は個人の特別な献金が含まれています。宗教活動費を含め、今後の小教区支援に役立つことが出来ます。

③ 2023年度のカテドラル献金は99万円で前年比17万

入管法、コロナ感染によるパンデミック、作家の作品などを基に、司祭の生き方や宣教師の視点を導いた。その内容は、神とその似姿である人とのつながり、神の計画や摂理に対する信頼と協力

森山司教は教区司祭として長年福岡教区で宣教師牧にあたり、今年も黙想指導の役割が求められる。この黙想会は、司祭の個人黙想を導くことを目的として、司祭の教

神父・船津亮太の ローマからの手紙3

最初の一年はイタリア語で聖書古典言語であるギリシア語、ヘブライ語の基礎を習得するために過ごしました。コレジオの友達に教皇フランシスコの一般謁見に出かけるときも、私は部屋でギリシア語の勉強をしていましたし、コロナに感染して自主隔離していた一年目のクリスマス休暇も、部屋でヘブライ語の勉強をしていました。

6月25日(日) 享年99。誓願生活57年でした。

日本にいたら学べなかったであろうという事は多いです。例えばアフリカのエリトリア出身の教授は、ヘブライ語と同じセム語系の母語を喋るので、アラム語なども交えた語義説明を実に詳細にしてくれます。4世紀以降エチオピアに伝播したゲエズ語(古代エチオピア語) 訳聖書を引き合いに出して、現在の聖書正典化(外典化)の動きが、いかにヨーロッパ文化圏の枠内で行われた事象であったかを教わりました。

サンパウロ 福岡宣教センター

営業時間: 10:00~18:00
定休日: 日曜日・祝日

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか

代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業

- 一般住宅(新築・改築工事)
- 鉄骨工事
- R/C工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 **森山工務店**

ヨゼフ 森山新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 (SOU-EN)

カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。

木下株式会社

TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

知りたい！
福岡教区内の
修道会
宣教会⑮

福岡教区には現在 30 の修道会・宣教会・在俗会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。一昨年春より紹介している、その修道会や宣教会・在俗会。第 25 回は、神言修道会です。

神言修道会

福岡教区で働く司祭たち
左からリチャード神父（伊万里教会主任）、宮崎神父、岡崎才蔵神父（トラピスト女子修道会チャプレン）



神言修道会は宣教修道会で、ドイツ人司祭アーノルド・ヤンセンによって、1875 年に外国宣教をその主な目的として創られました。

本会は、その名称から神のみ言葉とその使命への献身を意味しています。その特徴は、様々な国や地域出身の異なる文化的背景を持つ会員同士が共に住み、意図的に多文化共同体を形成していることです。

それは多文化の豊かさを通して、互いに学び合い、その実りを

を多様化が進む社会に相応しく反映させる宣教活動を行うためです。現在、世界 70 ケ国で宣教活動を行っています。

日本において宣教活動が始められたのは 1907 年からです。3 人のドイツ人宣教師が派遣され、秋田、山形、新潟、富山、石川などの日本海側地方で宣教が開始されました。これらの地域は、その後、新潟教区として編成されています。

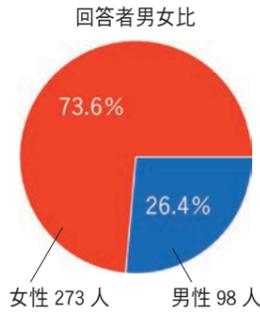
神言会日本管区本部が名古屋教区内へ置かれてからは、教育活動、教会司牧、社会福祉…等の分野で働いています。教育分野においては南山大学の人類学や宗教学の研究は有名です。日本管区所属の会員 130 人(23 ケ国から)のうち、3 分の 1 に当たる会員が教育分野で働いています。また、教会司牧においては名古屋、新潟、仙台、東京、福岡、長崎の 6 教区で 30 の小教区を担当しています。

尚、福岡教区においては、伊万里教会と久留米教会、それにトラピスト女子修道会のチャプレンと合わせて 3 人の会員が働いています。

神言会 宮崎保志（久留米教会主任）

これらを一冊化する事はできない。しかし、アンケートを見ても、紙媒体(新聞)はまだ必要とされている。若年層を念頭に、紙以外のメディアによる伝達も充実させていかなければならないが、現在発行されている「教区報」に満足したくない。また、意見を可能な限り反映し、力になりたいと思う。アンケートへのご協力ありがとうございました。(教区広報部)

【読者数と読者層】
現在の福岡教区の信者数約 3 万人に対し、教区報は毎月 6,000 部発行されているが、確実な読者数は把握されていない。各小教区から申請されている部数や広報部の残部から見て、読者数は決して多くはない。少なくとも主日のミサに参加しているすべての信者(大人)に手渡される

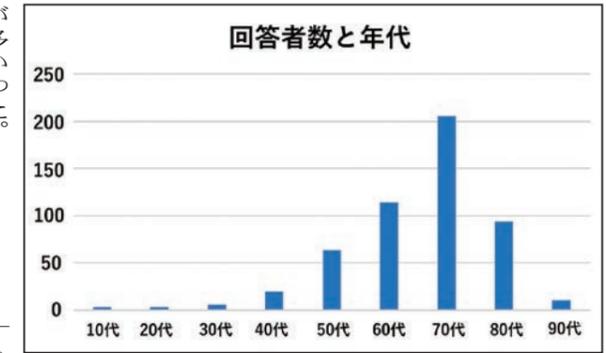


福岡教区 教区報
読者アンケートの結果を踏まえて

【希望する記事】
教区報を読む理由として「役に立つから」という回答が多く、その裏には「教区や他小教区の状況がわかり、参考になる」ことが考えられる。役に立つ記事として「巻頭言」(1面)と「各種お知らせ」(4面)を挙げる回答が多かった。

【改善してほしいこと】
「文字を大きく、字が詰まり過ぎ、分かりやすい文章で。写真やイラストを大きくして、かつ増やして欲しい。情報が多すぎる。信者でない方もわかりやすいように」という意見には、すべての信者に知っていただきたい情報を念頭に「できるだけたくさん」との思いが、逆にマイナスになっていると感じた。

【これからの教区報】
情報の伝達にはさまざまな方法、例えばTVや新聞、インターネット、SNS(フェイスブックやインスタグラムなど)、アプリなどがあり、



声(青少年活動)、現代に沿った話題(シノドスや教会内外の世界の動き)、信者の悩み相談への答え、教義や典礼(ミサ)の学び、ボランティア活動、若者向け(特に小学生や幼児)の記事、高齢者の話題、多宗教との交わりの記事などが望まれている。

佐賀地区研修会

6月9日(日)、佐賀地区宣教司牧評議会主催の信徒研修会が佐賀教会聖堂にて開催された。今回は、ヨゼフ・アベイヤ司教を講師に招き、一昨年に配布された福岡教区宣教司牧方針をテキストにして「ともに歩む教会」をメインテーマとした。



はじめにイエスのみことば「恐れることはない」(マルコ6・45-52)を全員で聴いた後、座席の前後のグループごとに4~6人程度で黙想と分かち合いの時間をとった。そして、アベイヤ司教が宣教司牧方針とシノドスの歩みについて説明を行い、教会の本当のあり方に目覚めていくよう、呼びかけた。さらに、3年後の2027年に福岡教区創立100周年を迎えるにあたって、今年の7月14日(日)から記念事業が始まることを紹介し、宣教司牧方針の3つの柱を1年ずつ取り上げて歩いていくことを伝えた。その最初の1年目のテーマが「互いに支えあう『交わりの教会』となる」であり、今回の研修会の「ともに歩む教会」というテーマと重なるものであった。最後に、再びグループで分かち合いの時間をとり、「教会に来て、よかった」と感じたことを中心に語り合った。

この日は佐賀県内から100人を超える信徒・修道者の参加があったが、座席の前後は違う小教区の信徒が座っていたところも多く、初対面の人もいた中であって分かち合いは盛り上がり、「時間が足りない。もっといろいろ話したかった」という声も聞かれるほどで、有意義な研修会となった。

報告: 吉浦健次(伊万里教会)

筑後地区研修会

6月23日(日)、筑後地区宣教司牧評議会主催の研修会として、久留米教会にアベイヤ司教を迎え、「ともに歩む教会」というテーマでお話いただいた。筑後地区の6つの小教区から約110人の信徒、修道者、司祭が参加した。



司教からは、今年の秋が最終会合となるシノドスの歩みと、教区宣教司牧方針をまとめる過程は同じであったことの説明があり、特に、司教や司祭だけでなく、皆に聖霊が働いていることを強調されていた。7月から始まる、福岡教区創立100周年に向けての準備第1年目のテーマ「互いに支えあう『交わりの教会』となる」に沿って、2時間の研修会の間に、数人ずつのグループで分かち合いの時間が持たれ、「教会に来て、よかった」と感じた時のことについて、さまざまな意見が交わされた。「今日のように、司教様のお話を聞くだけでなく、自分の話を聞いてもらえたこと」「日頃気にかかっていた方を久しぶりにミサでお見かけした時」などいたるところで活発な発言が聞かれた。

司教は「生活の中、普段の信仰の中で感じる神様の導きを分かち合う、こうした雰囲気・機会をつくるのが大事だ」と語った。様々な理由で教会から離れてしまった人の声に真摯に耳を傾けるためにも、日ごろから実生活の体験を分かち合い、様々な気づきから互いを知ることが出来るこうした時間がいかに大切かを痛感した。教区創立100周年に向け、私たち一人ひとりが互いに支え合い、教会という人々の交わり、エクレシアの在り方を見つめ直す必要を強く感じた研修会となった。

報告: 向江英子(久留米教会)

☆ゆりの花がさいていた
高橋てつ(著)
すずきたかはる(絵)



広告掲載をご希望の方は
下記までお問い合わせください
福岡教区本部事務局 広報部
電話 : 092-522-4059
メール : cdf-kouhou@nifty.com

※この枠で1回(ひと月)5,000円の献金(目安)をお願いしております。
※内容によってはお断りさせていただく場合もございます。あらかじめご理解とご了承のほどをお願いいたします。

社会医療法人 雪の聖母会



聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか

URL : http://www.st-mary-med.or.jp/

税込価格 1210円
文芸社発行

